

## 誰が川を汚したの（印旛沼バージョン）

対 象：印旛沼流域の小学生以上  
 人 数：10～30 人位を基本とする（100 名程度でも可能）  
 教科／分野：総合的な学習 社会科  
 授業時間数：最低 2 時間（2 コマ）  
 場 所：室内

ESD プログラ ムへの 想い	川や海は無限であると思ってしまう、「水に流してしまう」ことで何でも解決すると思 っている私たち。また、自分がこれくらい流しても大勢には影響しないと思ってしまう私 たち。 そうではなく、「私のこの小さな行動」が、遠くのことまで影響し、時間を超えて、未来 の子どもたちにもつながっていくことまで考えを拡げてほしい。
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私達の水の利用方法や日常生活が、水を汚染する可能性も持っていることに気づく。</li> <li>・ 前向きな行動が、汚染を防止する手助けになることを認識する。</li> <li>・ 環境保全は、一時のイベントではなく、私達の日常習慣のいくつかを変える継続的な要 求であることを実感する。</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちの何気ない行動が、川や沼を汚している（かもしれない）ということを、模擬体 験により実感してもらうことができる。</li> <li>・ シナリオに地域のことを盛り込むことによって、さらに「他人事」から「自分事」に考 えやすくなる。</li> </ul>
持続可能 な社会づ くりの構 成概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有限性</li> <li>・ 責任性</li> </ul>
重視する 能力・態 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>③多面的、総合的に考える力、</li> <li>⑤進んで参加する態度、</li> <li>⑥つながりを尊重する態度、</li> </ul>

### プログラムの流れ

時 間	ねらい	方法 場所	内容
15 分	これから印旛沼につ いて勉強するのだと いう方向性を示す	講義 調べ学習 (すべて 室内)	【導入】 印旛沼の現状（流域の様子、水質、生きもの、等）について 説明し、印旛沼のイメージを持たせる。 調べ学習として行ってもよい。
30 分	印旛沼の汚れが他人 事ではないことに気 づく。	全員参加 型模擬体 験	【模擬体験】 水を張った水槽を印旛沼に見立てて、その中にシナリオに沿 って「汚れ」を入れて行く。全員が何らかの形で「印旛沼」 に関わっていることを実感する。

10分	流域の開発・発展が、想定外の沼の汚濁とつながっていたことを知る。	講義	もう一度、最初に示した「印旛沼の現状」を見直して、なんで印旛沼が汚れてしまったのか、特に流域の開発（人口増加、土地利用の変化等）の歴史と沼の環境変化を重ね合わせて考える。
15分	私たちの暮らしと印旛沼（の汚れ）が繋がっていることに気づく。	グループ学習	私たちの一日の暮らしの中で、どんな行動が水を汚す可能性があるのかを、洗い出す。 それがどう印旛沼までつながっていくのかを考える。
10分	自分の行動によって印旛沼を少しでも良くしようとする。	グループ学習	これからの印旛沼について、どのような姿を期待するのか、そのために私たちのできることは何なのかを考える。
10分	発表することにより、自分自身もしっかり認識する。	グループ学習	「できること（決意表明）」を発表し合う。
SDGs との関連性	3：すべての人に健康と福祉を 6：安全な水とトイレを世界中に 11：住み続けられるまちづくり 12：つくる責任 つかう責任 15：陸の豊かさを守ろう 17：パートナーシップで目標を達成しよう		
学校・地域等との連携上の考慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材づくりなどで準備の時間が必要であることと、印旛沼（地域の川）については教員よりも地元の市民団体のほうが詳しいことが多いので、教員が行うより市民団体等の出前授業として実施するほうが、やりやすい。</li> <li>できれば導入部で、フィールド（印旛沼、近くの川など）を子どもたちに見せたいが、教員だけでは難しいという場合、フィールドワークの部分だけ市民団体が支援するという連携もあり得る。</li> </ul>		
対象を発展させる可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>印旛沼流域以外の場合は、地域を流れる川などを使ったシナリオを作成し、応用する。</li> <li>できれば、この2コマ授業の前後で、校外学習として印旛沼（取り上げた川）を見学させたい。</li> <li>小学校で2時間（45分×2）の時間配分としたが、公民館等で（子供、おとな、どちら対象でも）2時間の環境講座としても実施可能である。</li> </ul>		
その他補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り上げたい川や湖など（ここでは印旛沼）の地域の地名や街の様子などを入れ込んだシナリオ（街の発展とともにだんだん川が汚れていく）を作成する。</li> <li>シナリオ作成時には、ある特定の汚濁の原因を犯人扱いしないように配慮する。</li> <li>シナリオに出てくる「汚れ」を、参加者の人数分用意する。（人数が多い場合には1種類の「汚れ」を複数個作る。</li> <li>「汚れ」は他の人には見えないように、周囲を紙で覆った小瓶などに入れて参加者全員に配っておく。「汚れ」は、本物の汚れでなくても、そのように見えるもの（手についても危険でないもの）を用意する。</li> </ul> <p>※ このプログラムは、体験型水教育プログラム「プロジェクト WET」の“Who Polluted the Potomac?” を印旛沼用にアレンジしたものである。</p>		